

「サーカスのライオン」
～場面を比べることで、登場人物の変容を捉える～

授業者 附属池田小学校 中川 雅子

1. 対象 附属池田小学校第3学年南組(34名)

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。

・思考力、判断力、表現力等に関して

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。

登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。

・学びに向かう力、人間性等に関して

文章を読んで感じたことや考えたことを、積極的に伝え合おうとしている。

3. 指導に当たって

(1) 教材観

「サーカスのライオン」は、言葉や挿絵に着目しながら場面を比べて読むことによって、登場人物の変容やその理由を捉えることができる教材である。

第一場面では、「目も白くにごってしまった」など、退屈そうに火の輪くぐりをしているじんざが描かれているのに対し、第三場面では、「目がぴかっと光った」など、サーカスのライオンとしての生きがいを取り戻したじんざが描かれている。そのように変容したのは、男の子と出会い心温まる交流を重ねたからである。また、第一場面の火の輪をくぐるじんざに対し、第四場面では、「命がけて男の子を助けようと火に飛び込む」じんざが描かれている。じんざが命がけて男の子を救ったのは、年老いた自分よりも未来のある男の子の幸せを願ったからだろう。このように、場面を比べて読むことによって、じんざがどのように変容したのか、なぜ変容したのかを考えることができる教材である。

(2) 児童観

登場人物の気持ちの変化を叙述から読み取ったり、場面を比べたりする学習は既に習っており、その習熟をはかる段階である。物語文「ちいちゃんのかげおくり」の学習では、中心人物の表情のイラストを描くことによって、感じたことや考えたことの違いを交流した。国語の学習時の児童の様子をふりかえると、ただ単に教師が発問をするよりも、役割に分かれて会話文を読んだり、イラストを描いたりするような活動を取り入れることで、教材文を読み返す児童の姿、活発に話し合う姿が見られた。「サーカスのライオン」でも、そのような児童の姿が見られるように学習を進めたい。

(3) 指導観

この教材の学習で児童に身に付けてほしいことは、複数の場面の叙述から、じんざの変容やその理由を捉えることである。そのために、①一場面と三場面を比べてじんざがどのように変容したのか、なぜ変容したのか考えること、②じんざが「ようし、あした、わしはわかいときのように、火の輪を五つにしてくぐりぬけてやろう。」と言ったと

きの気持ちを考えることを大切にしたい。

一場面と三場面を比べる学習では、じんざの表情のイラストを描かせる。イラストを描くことによって、「目がぴかっと光った」など、じんざの様子を表す言葉に着目し、じんざの変容を捉えられるからである。その後は、なぜじんざが変容したのかを考えさせる。このとき、じんざの表情のイラストを根拠にしたり、イラストに吹き出しをつけ足したりすることで、複数の場面の叙述からじんざの変容の理由が語られるようにしたい。

三場面のじんざの変容を捉えることが、じんざが命がけて男の子を救った理由や、五場面の「五つの火の輪」の理由につながると考える。三場面のじんざの変容を単元計画の中心に据えて学習を進める。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。	文章を読んで感じたことや考えたことを、積極的に伝え合おうとしている。

5. 単元の指導計画(全9時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	物語の冒頭部と結末部から、展開部を予想する。物語を読んだ感想を交流する。	物語を読んで感じたことや考えたことを表現している。		●		ノートに書いた感想
2	第一場面を読み、じんざの人物設定を捉える。	じんざの課題について考えている。	●	●		ふりかえり(ノート)
3	第二場面を読み、男の子の人物設定や、じんざの気持ちの変化を読み取る。	男の子と出会い、じんざの気持ちがどのように変化したのか捉えている。		●		ふりかえり(ノート)
4	第一場面と第三場面のじんざを【本時】比べて読み、じんざの変容や、その理由を読み取る。	じんざの変容を、行動や会話文など本文を根拠にして考えている。		●		ふりかえり(ノート)
5・6	一場面の挿絵と比べることで、じんざが命がけて男の子を救おうとしている理由を考える。	複数の場面の叙述から、じんざが火の中に飛び込んだ理由を考えている。		●		ふりかえり(ノート)
7	「みんなが知っていたこと」や、「火の輪が五つの理由」を考える。	じんざがどのように去ったのか表現している。		○		ふりかえり(ノート)
8	じんざの課題や生きがいについてふりかえり、物語の結末について自分なりの感想を持つ。	感じたことや考えたことを伝えている。		○		感想文

9	中心人物が変容する物語を見つけて読む。	積極的に物語を読んでいる。	●			本を選んだ理由(ノート)
10	中心人物が変容する物語を交流する。	物語を読み、中心人物の変容を捉えている。			●	発言

●・・・形成的評価(指導に活かす評価) ○・・・総括的評価(記録に残す評価)

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

じんざがどのように変容したのか、なぜ変容したのかを捉えることができる。

(2) 本時の評価規準

じんざの変容を、行動や会話文など本文を根拠にして考えている。

(3) 本時で発揮されるグローバル市民性について

・主体的に行動する姿

じんざの表情イラストを描くときに発揮される

表情イラストの違いを顕在化させることによって、活発な話し合いをサポートする。

・思考したことを共有する姿

「火の輪を五つにした理由」を発表するとき、振り返りを発表するときには発揮される

本文を根拠にして話し合うことによって共有をはかり、話を聞き合う雰囲気を高める。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 七分	1. 前時の想起をする 2. 3場面の音読をする。	・じんざと男の子の人物設定や、二人の課題(家族と離れて暮らしていること)を想起させる。 ・役割に分かれて音読する。	
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> どんなじんざになっただろう。 </div>		
十分	3. 表情のイラストを描いたり、吹き出しを書いたりすることで、じんざがどう変わったのか考える。 また、本文のどこから読み取ったのか考える。	・表情のイラストを用いることで、「じんざがどう変わったのか」を表現することができると考える。このとき、恐らく、「目を細くしたじんざ」「のりだしたじんざ」「目がぴかっと光ったじんざ」の三種類が出てくるので、時系列に板書をする。 ・電子黒板を使って共有をはかる。	
七分	4. 一場面のじんざと、「目がぴかっと光った」じんざを比べて、どうしてこんなに変わったのか考える。	・イラストを用いたり、吹き出しをつけ足したりすることで、「おこづかいがたまった」という直前の出来事だけでなく、男の子がライオンを好きと言ってくれたこと、お母さんの話を聞かせたことなど、複数の場面の叙述から変容の理由を考えさせる。	
十分	5. 「火の輪を五つにする理由」について考える。	・一場面や二場面を想起させ、授業者が「三つの火の輪でも、男の子は喜ぶと思う。」と児童に問いかけることで、火の輪ぐりにやる気が出たじんざの気持ちに気づかせたい。	
まとめ 十分	6. じんざの変容についてわかったことを振り返る。	・退屈だった火の輪ぐりにやる気が出たのは、男の子の存在に励まされたから、また、その男の子がサーカスを楽しみにしてくれているからである。お母さんの退院など、物語の転機に気づいている意見を取り上げる。	じんざの変容を、行動や会話文を根拠にして考えている。 (ノート)

(5) 準備物

電子黒板、一場面のじんざの表情のイラストの掲示物

7. 参考文献

平成30年、文部科学省、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編